

3月下旬播種「コシヒカリ」 不耕起乾田直播栽培での適正な施肥・播種量

不耕起乾田直播栽培では、規模拡大を図るため、播種作業が分散できる早期播種技術の確立が求められています。そこで、「コシヒカリ」の3月下旬播種における適正な播種量と施肥量を明らかにしました。

● 播種量は 10a あたり 6～8kg ●

安定収量を得る穂数（400本/m²）を確保するために、播種量は4月中旬播種（適正播種量5～7kg/10a）よりも多い6～8kg/10aが必要です。



3月下旬播種の苗立ちの様子

表1 播種量の違いが収量・品質に及ぼす影響

播種量 (kg/10a)	苗立数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	白米タンパク質含量 (乾物%)
5	165	375	616	23.2	6.4
6	203	399	622	23.2	6.5
8	273	427	628	23.3	6.8

注) 試験年度: H19～20、播種日: 3/20(H19)、3/26(H20)

表2 施肥組成と施肥量の違いが収量・品質に及ぼす影響

施肥組成	玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	白米タンパク質含量 (乾物%)
LP70:LPSS100:LPS120=6:2:2	622	23.2	6.5
LP40:LPSS100=6:4	599	22.9	6.5

注) 試験年度: H19～20、播種日: 3/20(H19)、3/26(H20)、施肥N量6.8kg/10a(移植の10%減肥)

施肥量	玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	白米タンパク質含量 (乾物%)
移植同等(N7.5kg/10a)	630	22.1	6.4
10%減肥(N6.8kg/10a)	655	22.5	6.4
20%減肥(N6.0kg/10a)	628	22.3	6.2

注) 試験年度: H21、播種日: 3/30、施肥組成: LP70:LPSS100

● 肥料はLP70:LPSS100:LPS120=6:2:2 を移植栽培より10～20%減肥 ●

LP70:LPSS100:LPS120=6:2:2に混合した肥料を用いることで、千粒重が高まり、収量を確保できます。この肥料は受注一括生産されています。

この肥量を移植栽培の標準的窒素施肥量（基肥+穂肥）から10～20%減肥することで、収量及び白米タンパク質含量は同等のまま、千粒重を高めることができます。

● 技術の実証 ●

上記の技術を組み合わせることで、目標収量・品質を達成できます。

(収量・品質目標)

- 収量 520kg/10a 以上
(生産量を1万円/60kg以下に抑えるために設定した反収)
- 千粒重 21.5g 以上
- 白米タンパク質含量(乾物) 6.9%以下
(玄米(水分15%)換算 6.6%以下)

表3 現地実証試験結果

試験場所	玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	白米タンパク質含量 (乾物%)
水戸市	655	22.5	6.4
龍ヶ崎市	608	23.0	6.7

注1) 試験年度: H21

注2) 水戸市は、3月31日播種、播種量8kg/10a、龍ヶ崎市は、3月24日播種、播種量6kg/10a。施肥組成はLP70:LPSS100:LPS120=6:2:2、施肥N量は移植の10%減肥。